

二〇〇四年十二月二十六日に発生したスマトラ島沖大地震・津波は二十二万人以上の死者・行方不明者と天文学的な被災者を出した。AMDA本部と九カ国の支部の連携により「AMDA多国籍医師団」として百人以上の医療スタッフを迅速にインドネシア、スリランカそしてインドの被災地に派遣し、緊急救援活動を実施した。「救え

AMDA代表

菅波 茂

る命があればどこへでも」のスローガンがアジア規模で実現した瞬間だった。

一九九三年五月。「アジア多国籍医師団構想の提唱と実現」をテーマにして、林原フォーラムが岡山の林原藤崎研究所で三日間にわたって開催された。十七カ国から五十三人が集まった。林原フォーラムの趣旨は、岡山の地域文化向上のために世界レベルの英知を結集することである。この時の

テーマを選んだのは数学の世界的権威である広中平祐氏や地元では黒住宗晴氏などの有識者である。

〇六年五月。林原共済会理事長である林原健氏に初めてお会いした。「めったに人に会わない社長に会っていただき幸せです」。返ってきたのは「誤解ですよ。商売の話が苦手なだけです」だった。最先端の医療だけでなく、ゴビ砂漠に恐竜の化石を追う、チベット医学の伝える深遠な摂理を支援する。岡山では悠久の時空に遊ぶ最後

の風流人かもしれない。「AMDA多国籍医師団」の特徴はローカルイニシアチブと相互扶助である。「困ったときはお互いさま」はアジア、アフリカそして中南米の共同体の精神である。発展途上の医師団による地球規模の緊急人道支援活動の実施は「西のジュネーブ、東の岡山」の具現化である。当時無名のAMDAであったにもかかわらず、国際会議の機会をいただいたことにあらためて感謝をしたい。